



**2021年3月期 第3四半期
決算説明資料**

2021年2月4日

株式会社雪国まいたけ
東証第一部:1375



1

2021年3月期 第3四半期 決算概要

2

2021年3月期 業績予想

3

中期経営計画（2020年3月期から2023年3月期）

4

参考資料



1

2021年3月期 第3四半期 決算概要



売上収益

前年同期比
+4.8億円
(+1.9%)

- 第3四半期は、安定した気候による野菜全体の生育順調から市場に対し、供給過剰傾向となり野菜相場は低迷
- 茸事業においても向かい風の厳しい状況が続くものの、消費者の健康志向の高まりを背景に、茸事業は販売重量が増加し、第3四半期累計期間では増収
- 2020年2月に販売終了したカット野菜、納豆の減収があったものの、2019年10月に子会社化した三蔵農林のマッシュルームが堅調に推移し、増収に寄与

調整後 営業利益

前年同期比
+9.6億円
(+15.0%)

- 茸事業の増収、ユーティリティ費の減少、生産品質の改善や生産効率の向上による労務費の削減等により増益
- 販売費及び一般管理費については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う対面での商談の自粛、店頭での販促活動の中止等により販売コストが減少した一方、売上の拡大により運賃、販売手数料等の変動コストは増加



2021年3月期 第3四半期 決算ハイライト（連結損益計算書）

(百万円)	2020年3月期 第3四半期累計	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	2021年3月期 第3四半期累計	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	増減額	増減率
収益合計 ^{*1)}	38,726	—	—	39,712	—	—	+986	+2.5%
売上収益	25,473	—	—	25,956	—	—	+482	+1.9%
公正価値変動による利得	13,252	—	—	13,755	—	—	+503	+3.8%
営業利益	6,253	16.1%	24.6%	7,098	17.9%	27.3%	+844	+13.5%
税引前四半期利益	5,897	15.2%	23.1%	6,503	16.4%	25.1%	+606	+10.3%
四半期利益	3,779	9.8%	14.8%	4,259	10.7%	16.4%	+480	+12.7%
【参考数値】								
調整後営業利益 ^{*2)}	6,404	16.5%	25.1%	7,365	18.5%	28.4%	+961	+15.0%
調整後EBITDA ^{*2)}	7,706	19.9%	30.3%	8,838	22.3%	34.1%	+1,131	+14.7%
調整後四半期利益 ^{*2)}	3,952	10.2%	15.5%	4,703	11.8%	18.1%	+751	+19.0%

*1): 収益合計: 売上収益 + 公正価値変動による利得

*2): 調整後営業利益、調整後 EBITDA 及び調整後当期(四半期)利益を以下の算式により算出

・調整後営業利益 = 営業利益 + マネジメントフィー^{※1)} + 上場関連費用^{※2)}、調整後 EBITDA = 調整後営業利益 + 減価償却費及び償却費

・調整後当期(四半期)利益 = 当期(四半期)利益 + マネジメントフィー^{※1)} + 上場関連費用^{※2)} + リファイナンス関連損益^{※3)} + 調整項目の税金調整額

※1: 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び 神楽坂ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬

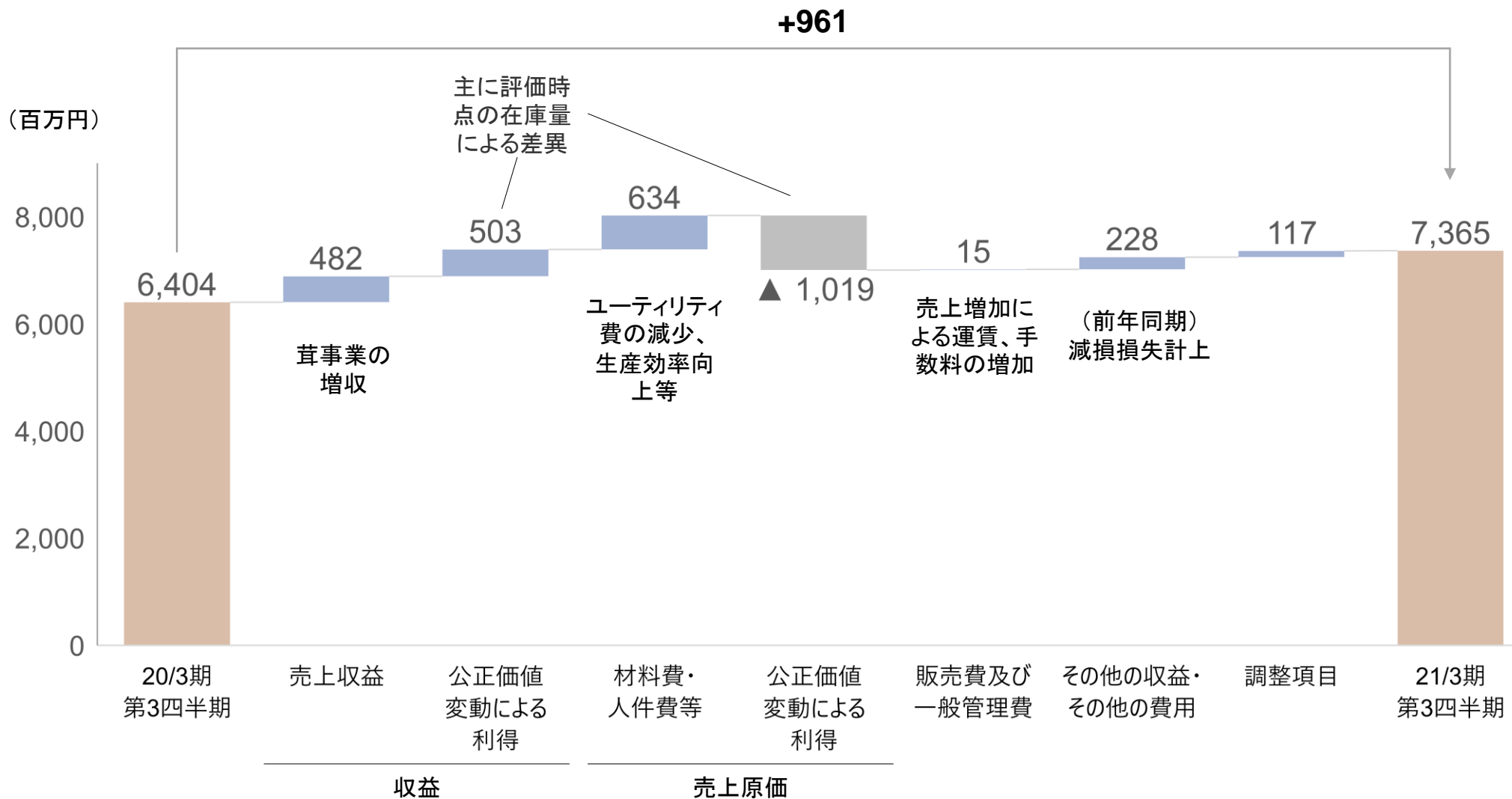
※2: 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一次的な費用

※3: 当社非公開化後に実施したリファイナンスに関連して一次的に発生したアドバイザー費用等。また、同リファイナンスに伴う契約金利の低下によって発生した一次的な利得とそれに連動して発生する残存契約期間における支払利息の増加額を相殺



調整後営業利益(第3四半期累計)の増減分析

・ 調整後営業利益ベースで、前年同期比961百万円の増益



調整後営業利益 = 営業利益 + マネジメントフィー^{※1} + 上場関連費用^{※2}

※1: 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び(株)神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬

※2: 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用



セグメント別売上収益

- ・主力事業であるまいたけを中心に、茸事業は増収となった一方で、不採算事業からの撤退により、その他事業は減収となったが、全体としては増収

(百万円)	2020年3月期 第3四半期累計	構成比	2021年3月期 第3四半期累計	構成比	増減額	増減率
売上収益合計	25,473	100.0%	25,956	100.0%	+482	+1.9%
茸事業	23,918	93.9%	25,564	98.5%	+1,646	+6.9%
まいたけ	14,624	57.4%	15,020	57.9%	+395	+2.7%
エリンギ	2,583	10.1%	2,630	10.1%	+46	+1.8%
ぶなしめじ	4,856	19.1%	5,027	19.4%	+171	+3.5%
茸その他	1,854	7.3%	2,886	11.1%	+1,032	+55.7%
その他事業	1,555	6.1%	392	1.5%	▲ 1,163	▲ 74.8%

【参考数値】 カット野菜・納豆(2020年2月終売)、三蔵農林(2019年10月子会社化)を除く売上収益

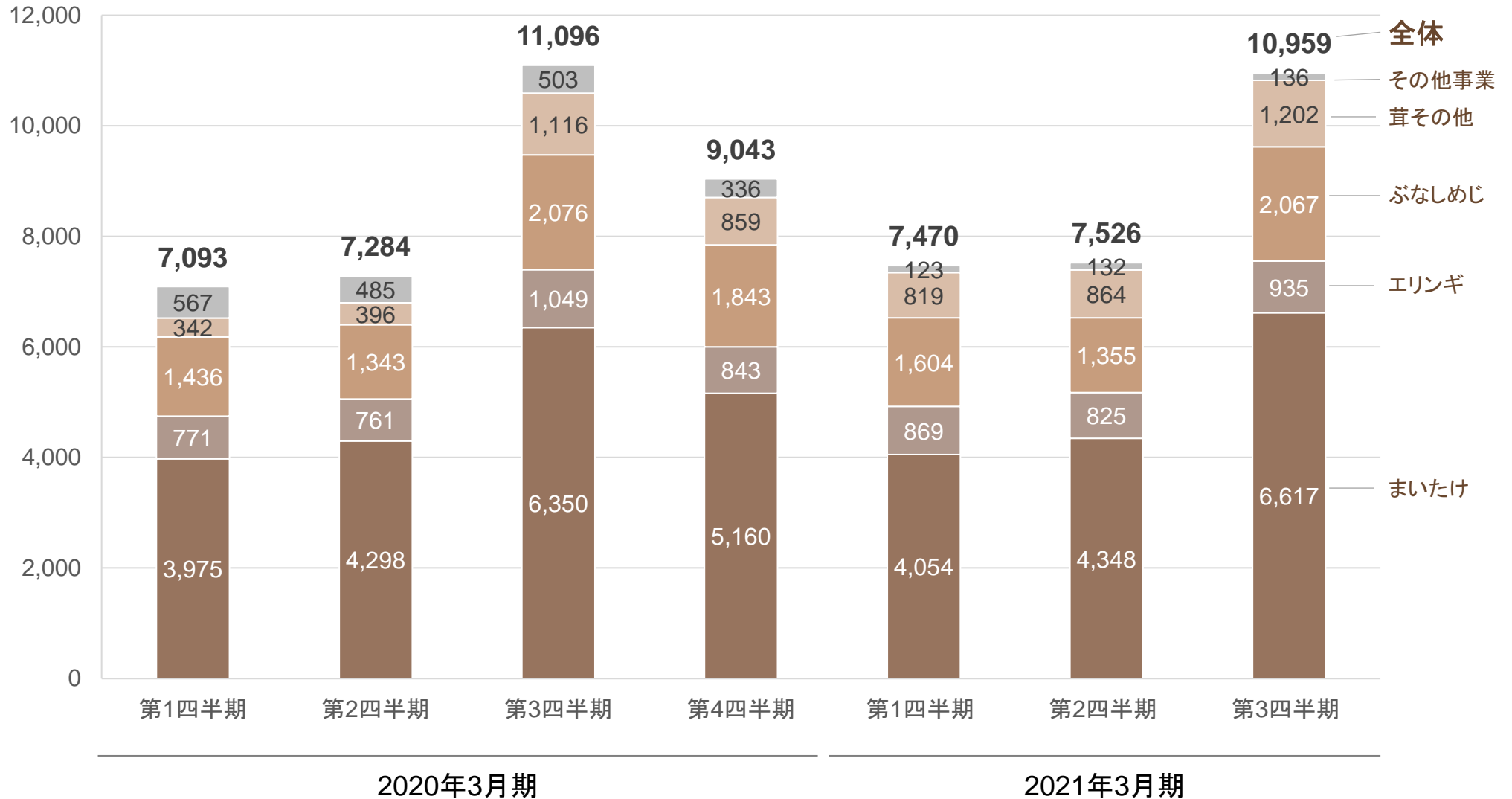
(百万円)	2020年3月期 第3四半期累計	構成比	2021年3月期 第3四半期累計	構成比	増減額	増減率
売上収益合計	23,861	100.0%	24,249	100.0%	+388	+1.6%
茸事業	23,384	93.9%	23,857	98.5%	+473	+2.0%
その他事業	477	6.1%	392	1.5%	▲ 84	▲ 17.8%



セグメント別売上収益推移(四半期推移)

- ・ まいたけ等の茸事業は堅調に推移したものの、その他事業はカット野菜・納豆事業の撤退により減収

(百万円)





2021年3月期 第3四半期累計 茸事業の状況

- まいたけは、第2四半期以降、消費者の店舗への来店頻度は減少したものの、健康志向は継続して高まりを見せたため、販売量は増加となった一方で、秋口より続く野菜相場低迷等の影響により、販売単価は前年同期より低調に推移
- エリンギ、ぶなしめじの販売量は前年同期比で微減したものの、販売単価は好調に推移

	販売量比較 ^{*1)}		販売単価比較 ^{*1)}		【参考】生産量比較	
	前年 同期比	計画比 ^{*3)}	前年 同期比	計画比 ^{*3)}	前年 同期比	計画比 ^{*3)}
(%) まいたけ	106.3%	97.0%	96.7%	97.8%	97.5%	99.8%
エリンギ	99.4%	97.8%	104.0%	101.7%	93.6%	100.6%
ぶなしめじ	95.6%	99.6%	108.5%	99.9%	94.6%	101.1%
茸その他 ^{*2)}	—	140.2%	—	108.5%	—	98.3%

*1): 加工品を除いて比較

*2): 本しめじ、はたけしめじ、マッシュルームの合算値にて比較

*3): 2020年9月17日に公表した「東京証券取引所市場第一部への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」における当社グループの連結業績予想との比較



2021年3月期 第3四半期 決算ハイライト (連結財政状態計算書)

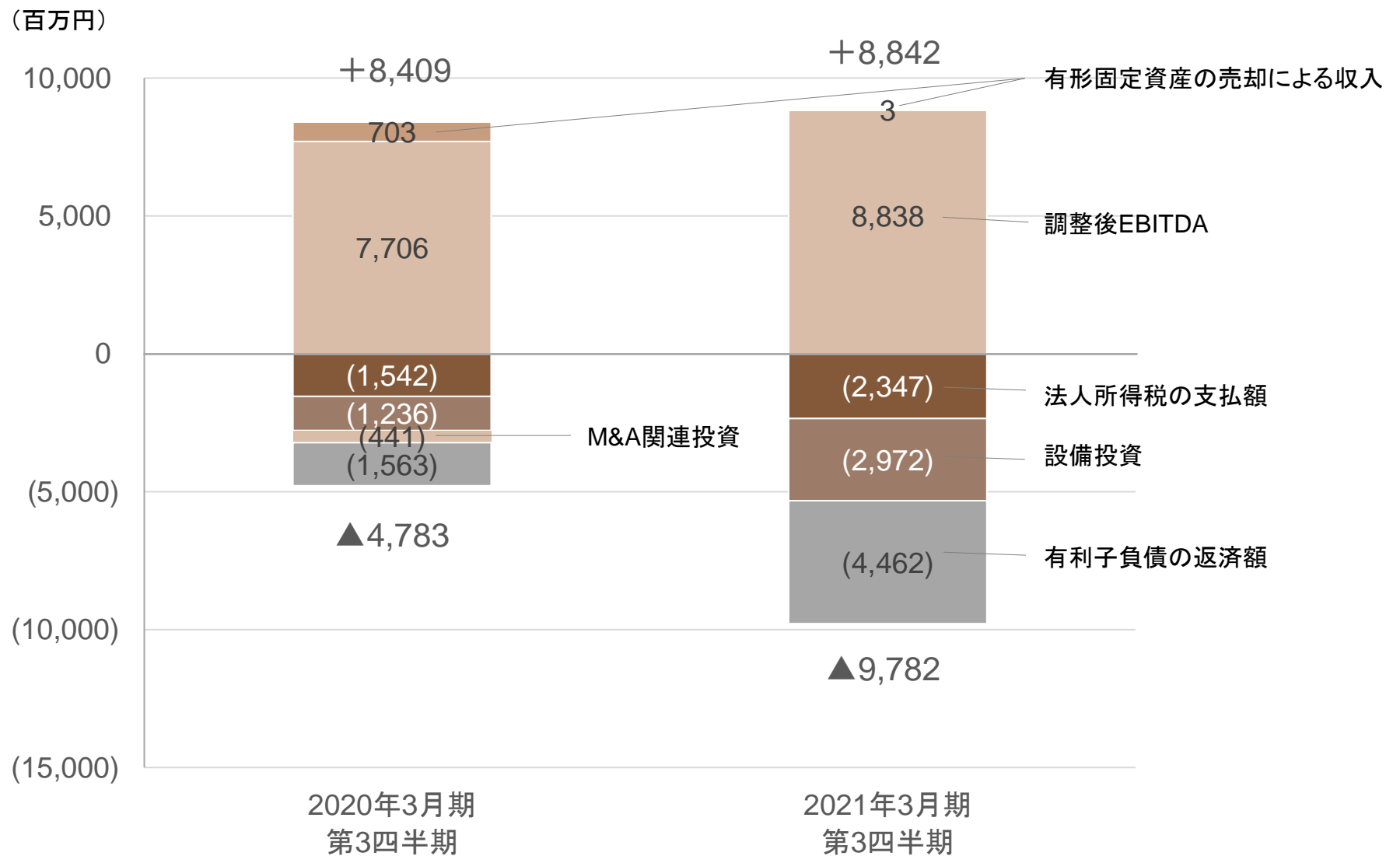
- 期限前弁済及び約定弁済の実施により、借入金が大きく減少
負債が減少する一方で、資本の厚みは増しており、財務の健全性を維持

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期 第3四半期	増減額	増減率	主な増減理由
流動資産	11,045	11,160	+114	+1.0%	
棚卸資産	1,292	1,385	+92	+7.2%	公正価値変動による利得
生物資産	3,019	4,012	+992	+32.9%	
非流動資産	24,153	25,352	+1,198	+5.0%	有形固定資産増加
資産合計	35,199	36,512	+1,313	+3.7%	
流動負債	7,280	9,140	+1,859	+25.5%	買掛金、投資支払手形、 未払法人所得税等
1年内返済予定の長期借入金	942	1,132	+190	+20.2%	
非流動負債	23,017	18,756	▲ 4,260	▲ 18.5%	
借入金	22,438	18,273	▲ 4,164	▲ 18.6%	期限前弁済 35億円 約定弁済 9億円
負債合計	30,297	27,896	▲ 2,400	▲ 7.9%	
資本合計	4,901	8,615	+3,714	+75.8%	
負債及び資本合計	35,199	36,512	+1,313	+3.7%	



キャッシュフロー実績(第3四半期累計)

- 販路拡大に向けた増産、及び生産性向上に向けたファクトリーオートメーション化を推進するため、設備投資を拡大しているものの、財務体質の改善に向けて、有利子負債の期限前弁済も実施





主要財務指標の状況

- 堅調な業績状況を踏まえ、期限前弁済を実施し、有利子負債に関する財務指標を改善

のれんに関する財務指標推移

のれん/純資産倍率 ^{*1)}



純有利子負債に関する財務指標推移

Net D/Eレシオ ^{*1)}



- 減損の兆候の有無に関わらず、**年に1度減損テストを実施**
- 四半期毎に減損の兆候の有無を確認し、**減損の兆候がある場合は適宜減損テストを実施**

Net D/EBITDA倍率 ^{*2)}



*1): IFRSに基づく連結財務数値

*2): 一過性費用を除いた調整後EBITDAの実績値を使用。調整後EBITDA=調整後営業利益+減価償却費

*3): 直近12ヵ月(2020年1月~2020年12月)の累計調整後EBITDAにて試算



業績への 影響

- 4月に発令された緊急事態宣言をきっかけとした巣ごもり需要は、大きな追い風となった
- 5月の緊急事態宣言解除以降は、消費行動の変化により、来店頻度の減少がみられるものの健康志向の高まりもあり、まいたけの販売量は増加

感染拡大防止に 対する取り組み

全社での 取り組み

- 検温・マスク着用徹底
- 手洗い消毒の励行・定期的な換気
- 密閉空間での社内会議や打ち合わせの原則禁止
- 昼食の時間差取得や着席と離席時の時間の記録、会話自粛
- 食事中は、座席を1mの間隔に空け、対面での着座を原則禁止
- 接触確認アプリの利用推奨
- 緊急事態宣言地域への往来を抑制

営業所等 での 取り組み

- 感染拡大地域においては、オフィスへの出勤は必要最低限として、原則テレワーク対応



アグリテックの追求による生産性向上への取り組み

- ロボット技術やAIを積極的に活用し、各工程の効率化を図り、省人化を推進

 雪国まいたけ

×

AgriTech

アグリテック



まいたけ
カット工程



まいたけ
植菌工程



エリンギ
収穫工程





まいたけカット工程における効果

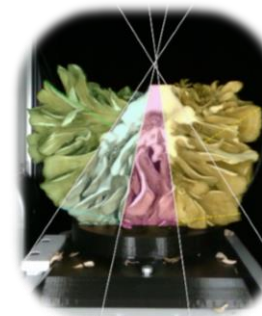
- 熟練従業員と同等レベルでカットすることが可能なAIアルゴリズム搭載の自動カットロボットの開発に成功
- 今後は、AIやロボティクスの実装をした次世代型パッケージングライン(カットから包装までの工程)の開発による省人化を目指す

導入前

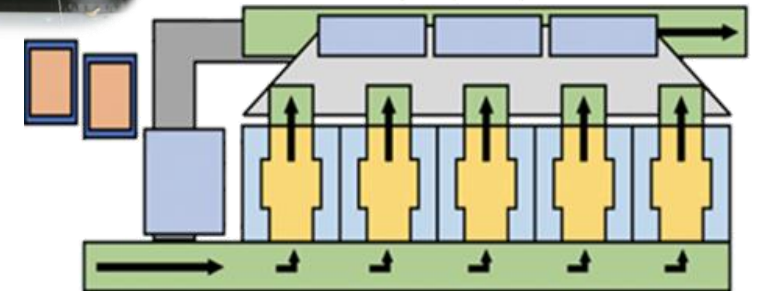


- 手作業により、パックに応じたサイズにまいたけのカットを行う
- 熟練従業員と経験が浅い従業員では、作業効率に差がある
- カットを行う従業員の人数確保が必要

導入後(想定)



AIアルゴリズムによるカット指示



次世代型パッケージングラインのイメージ

- AIアルゴリズムを実装する自動カットロボットの導入
- 熟練従業員と同等レベルでカットが可能



まいたけ 自動植菌機の導入

- まいたけの植菌工程において、自動化ラインを確立し、省人化を進めるとともに作業における従業員の負担を軽減

導入前



導入後



エリンギ自動収穫による 収穫量の拡大

- エリンギの自動収穫機にて、1回の収穫量を増やすことで、収穫作業の効率化を図る





企業との共同プロモーション戦略

- 高い栄養価、豊富な栄養成分、健康機能性等を消費者に訴求するため、他企業とのコラボレーションを積極的に実施。消費者とのタッチポイントを広げ、新規需要を創出



食品
メーカー



大手調味料メーカーとの
メニュータイアップ

中食・
その他



管理栄養士 浅野まみこ先生
(株式会社エピータ 代表取締役)
監修メニュー提案





プラスチックごみ削減の取り組み

- 袋包装及びノントレー製品への切り替えを進め、プラスチックの使用量を削減

ノントレー製品の
推進

- 「雪国しめじ恵み」で、株を固定するトレーをなくし、袋のみで包装を行う



トレーを
はずす



プラスチック削減効果
(重量比)



約**60%**削減

袋包装の
推進

- トレーに入った製品だけでなく、袋製品も販売



プラスチック削減効果
(重量比)



約**18%**削減



森林整備への取り組み

- ・ 地域社会とともに持続可能な未来を実現するため、人と森が共生できる森林公園を整備する
「雪国まいたけの森づくり活動」を開始

活動イメージ

荒廃した森林を間伐し、木々が育ちやすい環境を整え、人が訪れる空間をつくる



杉の人工林を間引いて健全な森林に誘導するとともに、広葉樹を植栽し地力の高く景観の良い混交林をつくる



本活動によりSDGsとして期待される効果



活動状況

調印式（2020年9月2日）

- ・ 南魚沼市、南魚沼森林組合、新潟県南魚沼地域振興局の各代表者と森づくり活動に関する協定を締結
- ・ 整備過程で発生する伐採した木は、当社栽培用のおが粉として活用予定



開所式（2020年10月19日）

- ・ 新潟県南魚沼市舞子にある大原運動公園周辺地域において、開所式を開催
- ・ 関係者ならびに従業員により、森林整備を実施





神明HDとの事業シナジー

- 神明HDは、国内の米穀卸最大手であり、神明HDの持つネットワーク、事業ノウハウを活用することにより、当社の西日本エリア及び海外への事業拡大が加速

西日本を中心とした新規取引先開拓、既存取引先の更なる強化



コラボレーションラベル

更なる食文化浸透を目的とした中食・外食業態への販路拡大

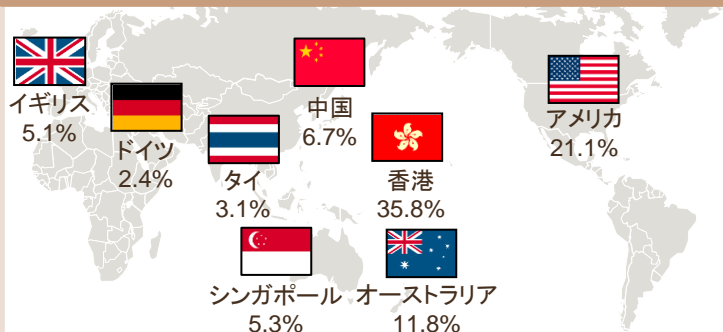


神明デリカとの共同開発商品

元気寿司とのコラボ商品



米輸出大手企業として確立された神明HDの海外販路活用



事業領域の拡大に資する戦略的M&Aの実現



瑞穂農林(株)、(株)きのごセンター金武、(株)三蔵農林のM&Aにより、商品ラインアップ拡充



連結損益計算書

(百万円)	2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	増減額	増減率
売上収益	25,473	25,956	+482	+1.9%
公正価値変動による利得	13,252	13,755	+503	+3.8%
収益合計	38,726	39,712	+986	+2.5%
材料費、人件費等	14,056	13,421	▲ 634	▲ 4.5%
公正価値変動による利得	11,822	12,841	+1,019	+8.6%
売上原価	25,878	26,263	+385	+1.5%
売上総利益	12,847	13,448	+600	+4.7%
販売費及び一般管理費	6,207	6,191	▲ 15	▲ 0.2%
その他の収益	238	37	▲ 201	▲ 84.4%
その他の費用	625	195	▲ 429	▲ 68.7%
営業利益	6,253	7,098	+844	+13.5%
税引前四半期利益	5,897	6,503	+606	+10.3%
四半期利益	3,779	4,259	+480	+12.7%
【参考数値】				
調整後営業利益	6,404	7,365	+961	+15.0%
調整後EBITDA	7,706	8,838	+1,131	+14.7%
調整後四半期利益	3,952	4,703	+751	+19.0%



連結損益計算書(四半期推移)

(百万円)	2020年3月期				2021年3月期		
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期
売上収益	7,093	7,284	11,096	9,043	7,470	7,526	10,959
公正価値変動による利得	2,579	4,402	6,269	2,990	3,153	4,504	6,097
収益合計	9,672	11,687	17,365	12,033	10,624	12,031	17,056
材料費、人件費等	4,341	4,321	5,392	5,140	4,122	4,302	4,995
公正価値変動による利得	3,071	3,032	5,717	4,274	3,605	3,241	5,995
売上原価	7,412	7,354	11,110	9,415	7,728	7,544	10,990
売上総利益	2,260	4,332	6,255	2,618	2,895	4,487	6,065
販売費及び一般管理費	1,990	1,899	2,316	2,162	1,909	2,048	2,234
その他の収益	209	10	18	52	16	10	9
その他の費用	49	119	456	71	94	77	23
営業利益	429	2,324	3,500	437	909	2,371	3,817
税引前四半期利益	269	2,193	3,435	748	775	2,243	3,484
四半期利益	149	1,449	2,180	565	482	1,477	2,299
【参考数値】							
調整後営業利益	474	2,381	3,547	495	1,007	2,537	3,821
調整後EBITDA	893	2,809	4,003	965	1,473	3,035	4,329
調整後四半期利益	218	1,502	2,231	330	591	1,629	2,482



連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,443	5,844	+3,400
税引前四半期利益	5,897	6,503	+606
営業債権及びその他の債権の増減額	▲ 676	▲ 1,391	▲ 715
棚卸資産の増減額	▲ 432	▲ 92	+339
営業債務及びその他の債務の増減額	▲ 482	1,431	+1,913
従業員給付に係る負債の増減額	▲ 815	50	+865
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,044	▲ 2,981	▲ 1,936
有形固定資産の取得による支出	▲ 1,236	▲ 2,972	▲ 1,735
有形固定資産の売却による収入	703	3	▲ 699
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 3,601	▲ 5,175	▲ 1,574
長期借入金の返済による支出	▲ 1,563	▲ 4,462	▲ 2,898
現金及び現金同等物の増減額	▲ 2,201	▲ 2,312	▲ 110
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,415	2,148	▲ 2,267



連結財政状態計算書

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期 第3四半期	増減額	増減率
流動資産	11,045	11,160	+114	+1.0%
現金及び現金同等物	4,461	2,148	▲ 2,312	▲ 51.8%
営業債権及びその他の債権	2,141	3,532	+1,391	+65.0%
棚卸資産	1,292	1,385	+92	+7.2%
生物資産	3,019	4,012	+992	+32.9%
非流動資産	24,153	25,352	+1,198	+5.0%
有形固定資産	16,710	18,073	+1,363	+8.2%
のれん及び無形資産	5,320	5,308	▲ 12	▲ 0.2%
資産合計	35,199	36,512	+1,313	+3.7%
流動負債	7,280	9,140	+1,859	+25.5%
営業債務及びその他の債務	2,390	3,875	+1,485	+62.1%
未払法人所得税	1,539	1,581	+41	+2.7%
1年内返済予定の長期借入金	942	1,132	+190	+20.2%
非流動負債	23,017	18,756	▲ 4,260	▲ 18.5%
借入金	22,438	18,273	▲ 4,164	▲ 18.6%
リース負債	483	387	▲ 95	▲ 19.8%
負債合計	30,297	27,896	▲ 2,400	▲ 7.9%
資本合計	4,901	8,615	+3,714	+75.8%
親会社の所有者に帰属する持分合計	4,899	8,620	+3,720	+75.9%
負債及び資本合計	35,199	36,512	+1,313	+3.7%



主要な経営指標

	2020年3月期 第3四半期累計	2021年3月期 第3四半期累計
調整後営業利益率	16.5%	18.5%
調整後EBITDAマージン	19.9%	22.3%
調整後四半期利益率	10.2%	11.8%
基本的1株当たり四半期利益 ^{*1)}	94.86円	107.04円
1株当たり調整後四半期利益 ^{*1)}	99.18円	118.03円
ROE(自己資本利益率) ^{*2)}	112.7%	63.1%
ROA(総資産利益率)	9.8%	11.7%
ROIC(投下資本利益率)	13.9%	16.7%

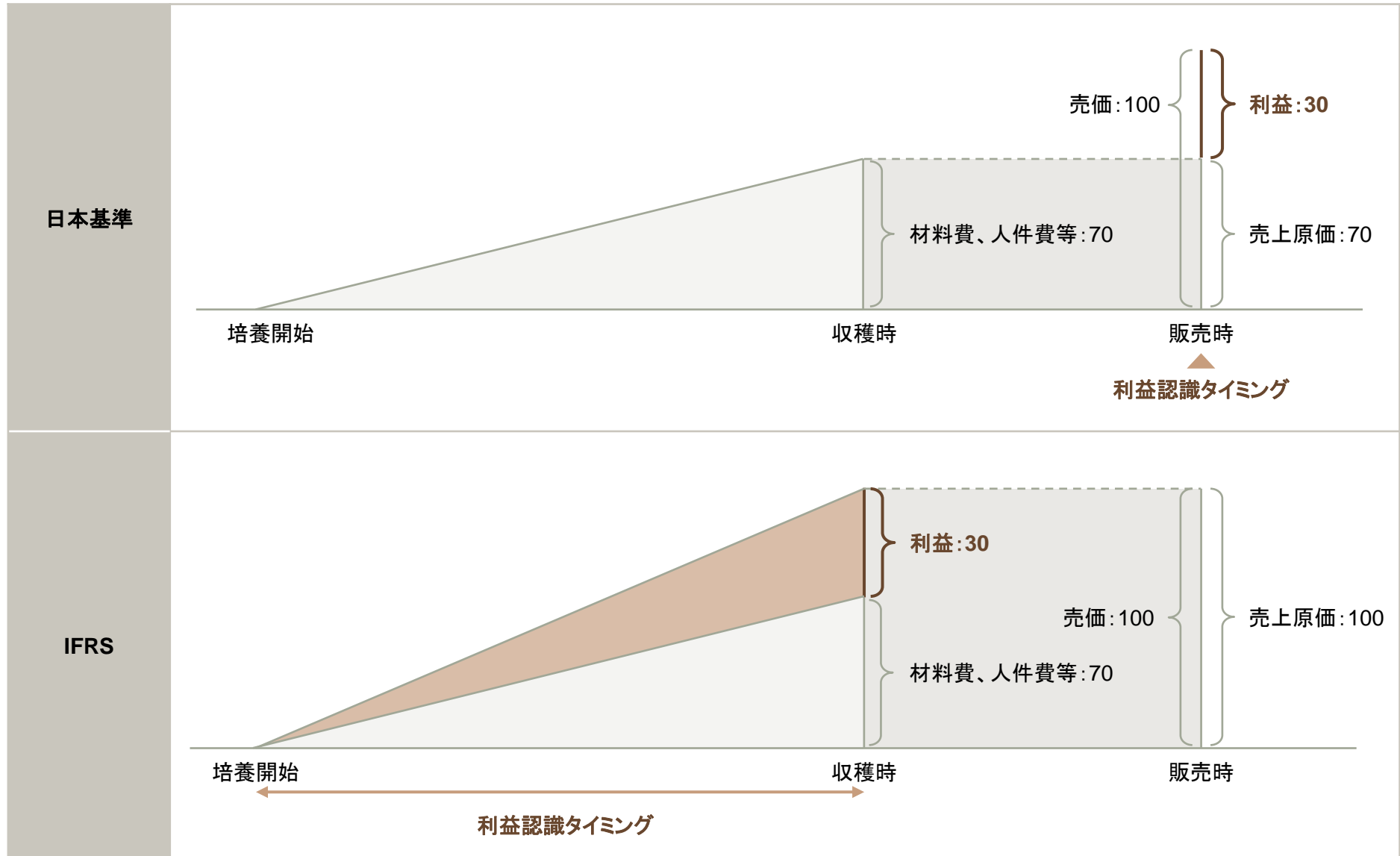
*1): 当社は、2020年7月30日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を実施しており、基本的1株当たり四半期利益及び1株当たり調整後四半期利益については、当該株式分割が行われたと仮定して、当該株式分割後の発行済株式数により算出

*2): ROE(自己資本利益率) = 親会社株主に帰属する四半期利益 ÷ 期中平均自己資本



IAS第41号「農業」の会計処理に関する概説

- 日本基準では販売時に利益を認識するのに対し、IFRSでは培養から収穫にかけて前倒しで利益を認識





農業会計適用による損益インパクト(第3四半期累計)

- 仕掛品に含まれる利得は、期首対比で第3四半期末に在庫量が増加、かつ単価が上昇したことから、+835百万円の損益インパクトとなった
- 一方で、製品の在庫量が第3四半期末に期首対比で減少したことから、製品・半製品に含まれる利得は軽微だった

(単位:百万円)

	内訳	2021年3月期 第3四半期累計	
公正価値変動による利得(収益)	期首仕掛品に含まれる利得	▲1,478	仕掛品に含まれる利得の期首・期末差額 +835百万円
	期末仕掛品に含まれる利得	2,314	
	当期収穫分	12,705	
	その他	214	
	合計	13,755	
公正価値変動による利得(売上原価)	期首製品・半製品に含まれる利得	▲436	製品に含まれる利得の期首・期末差額 +44百万円
	期末製品・半製品に含まれる利得	481	
	当期収穫分	▲12,705	
	その他	▲180	
	合計	▲12,841	
損益インパクト合計		+913	



農業会計適用による損益インパクト(四半期推移)

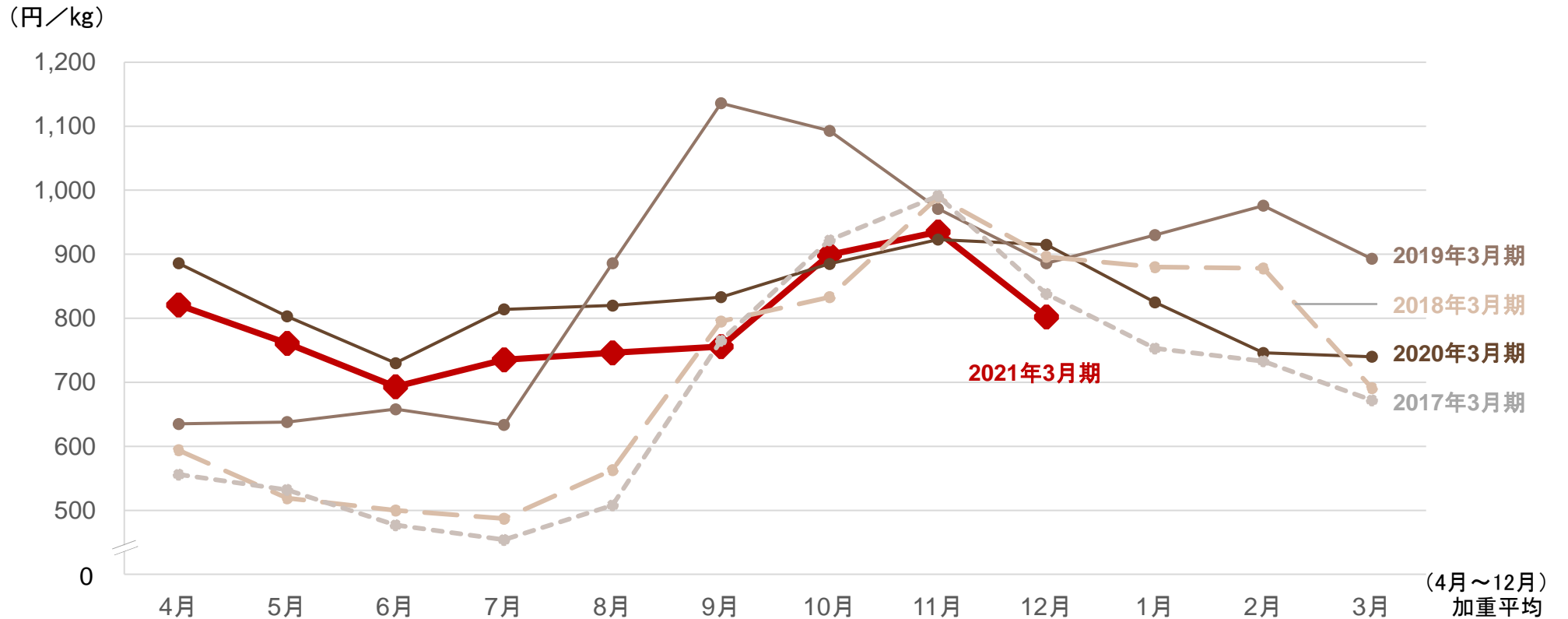
- ・ 公正価値変動による利得の損益インパクトは、四半期毎に大きく変動するが、通期での影響は軽微

(百万円)		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	
2021年 3月期	収益	期首仕掛品に含まれる利得	▲1,478	▲1,086	▲2,177	▲1,478	
		期末仕掛品に含まれる利得	1,086	2,177	2,314	2,314	
	売上原価	期首製品・半製品に含まれる利得	▲436	▲352	▲513	▲436	
		期末製品・半製品に含まれる利得	352	513	481	481	
	当期収穫分	±0	±0	±0	±0	±0	
	その他	25	11	▲3		33	
	損益インパクト合計	▲451	+1,263	+102		+913	
2020年 3月期	収益	期首仕掛品に含まれる利得	▲1,503	▲986	▲2,045	▲2,601	▲1,503
		期末仕掛品に含まれる利得	986	2,045	2,601	1,478	1,478
	売上原価	期首製品・半製品に含まれる利得	▲255	▲257	▲559	▲557	▲255
		期末製品・半製品に含まれる利得	257	559	557	436	436
	当期収穫分	±0	±0	±0	±0	±0	
	その他	22	10	▲2	▲40	▲10	
	損益インパクト合計	▲491	+1,370	+551	▲1,284	+146	



まいたけ市場取引の状況

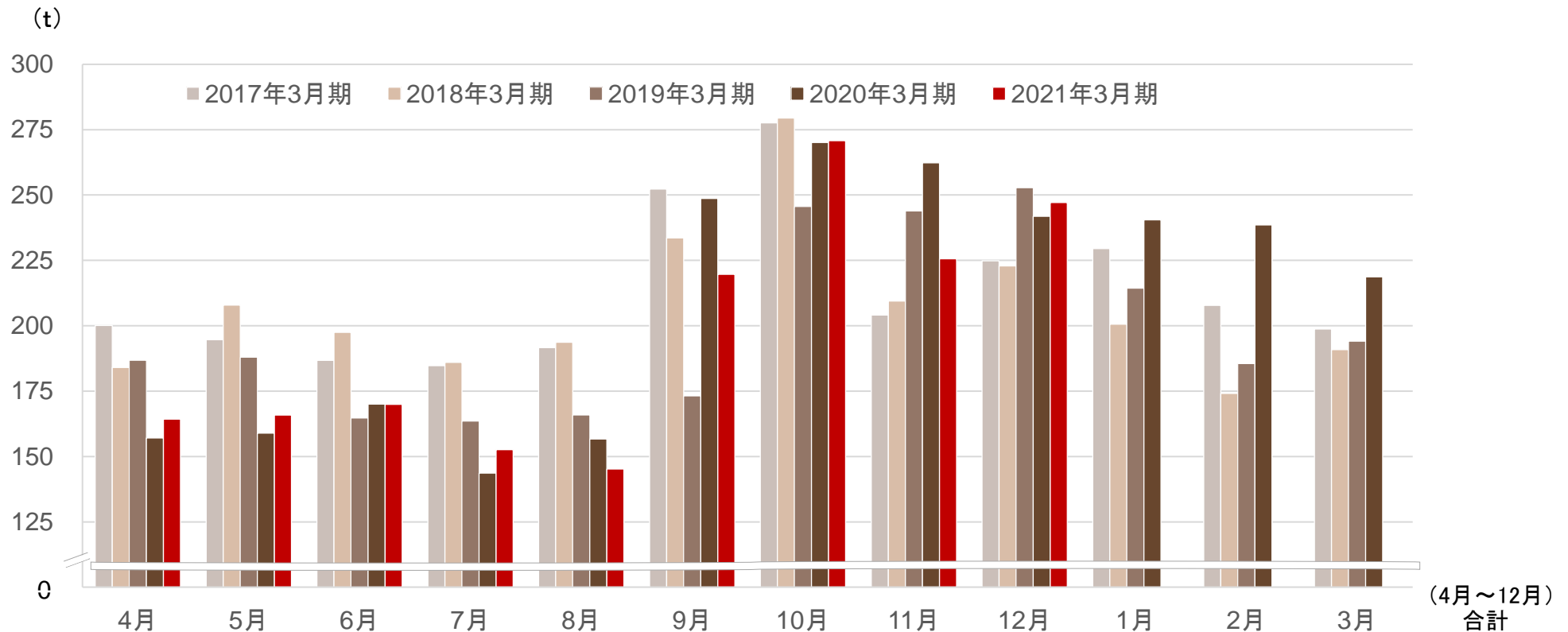
市場取引単価の推移



2021年3月期	821	761	693	735	746	756	899	935	802					805
2020年3月期	886	803	730	814	820	833	885	923	915	825	746	740		854
2019年3月期	635	638	658	633	886	1136	1093	971	886	930	976	893		854
2018年3月期	594	519	500	487	563	795	833	989	896	880	878	691		700
2017年3月期	556	532	477	454	508	765	922	991	838	753	733	672		691



市場販売量の推移

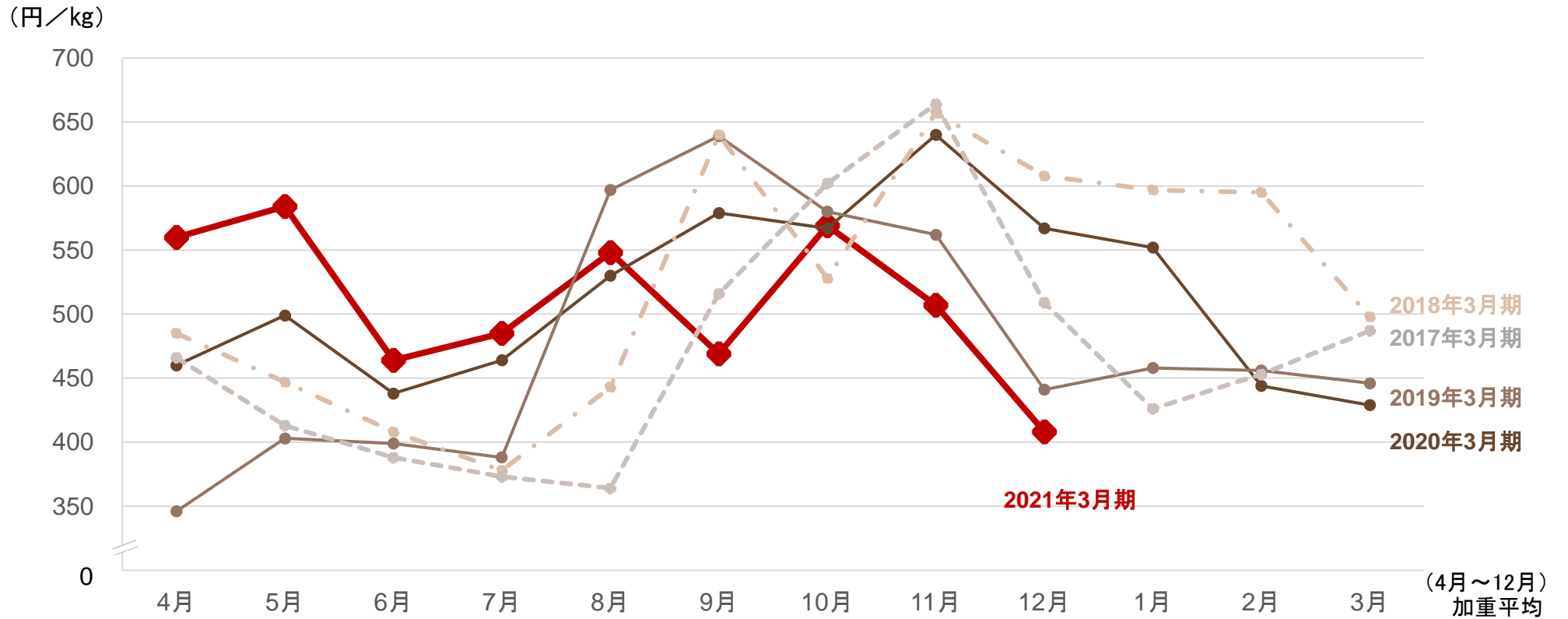


2021年3月期	164	166	170	153	145	220	271	226	247				1,761
2020年3月期	157	159	170	144	157	249	270	262	242	240	239	219	1,809
2019年3月期	187	188	165	164	166	173	246	244	253	214	185	194	1,784
2018年3月期	184	208	198	186	194	234	279	209	223	201	174	191	1,915
2017年3月期	200	195	187	185	192	252	278	204	225	230	208	199	1,917



エリンギ市場取引の状況

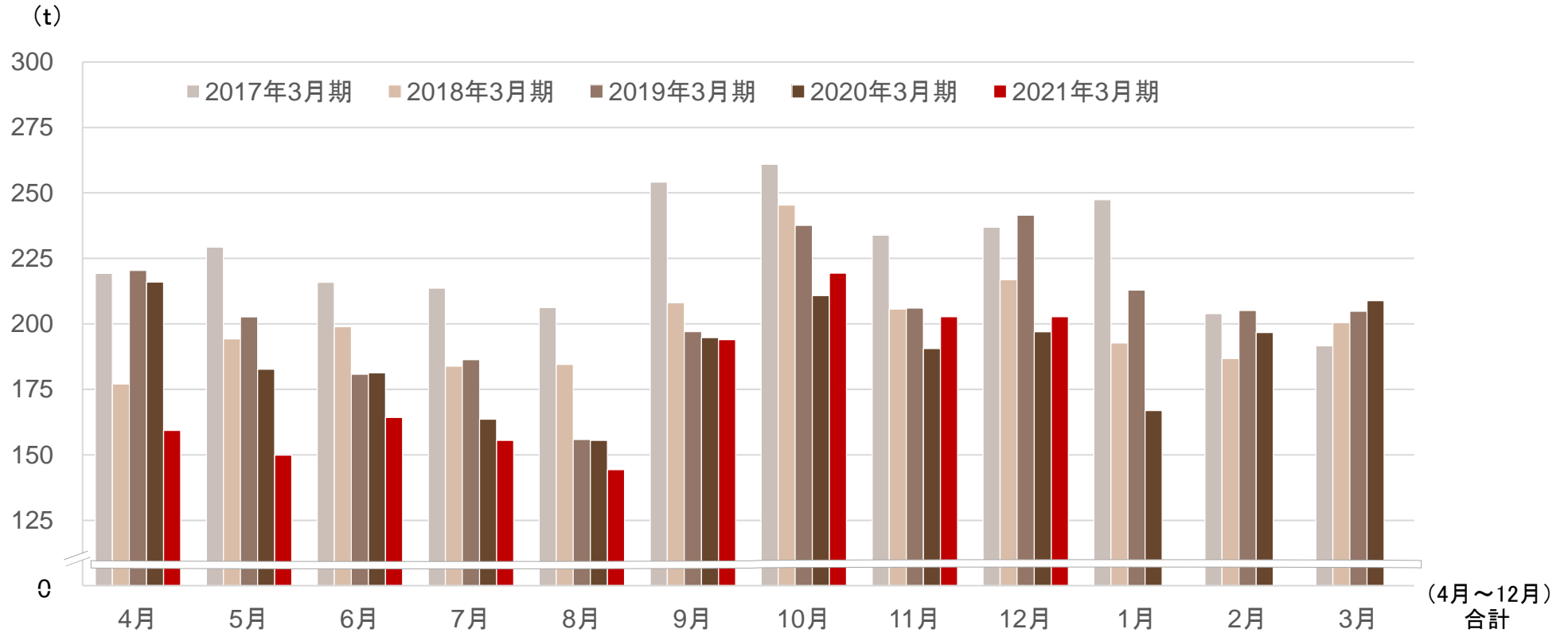
市場取引単価の推移



2021年3月期	560	584	464	485	548	469	569	507	408					508
2020年3月期	460	499	438	464	530	579	567	640	567	552	444	429		528
2019年3月期	346	403	399	388	597	639	580	562	441	458	456	446		482
2018年3月期	485	447	408	378	443	640	528	657	608	597	595	498		515
2017年3月期	466	413	388	373	364	516	602	664	509	426	453	487		483



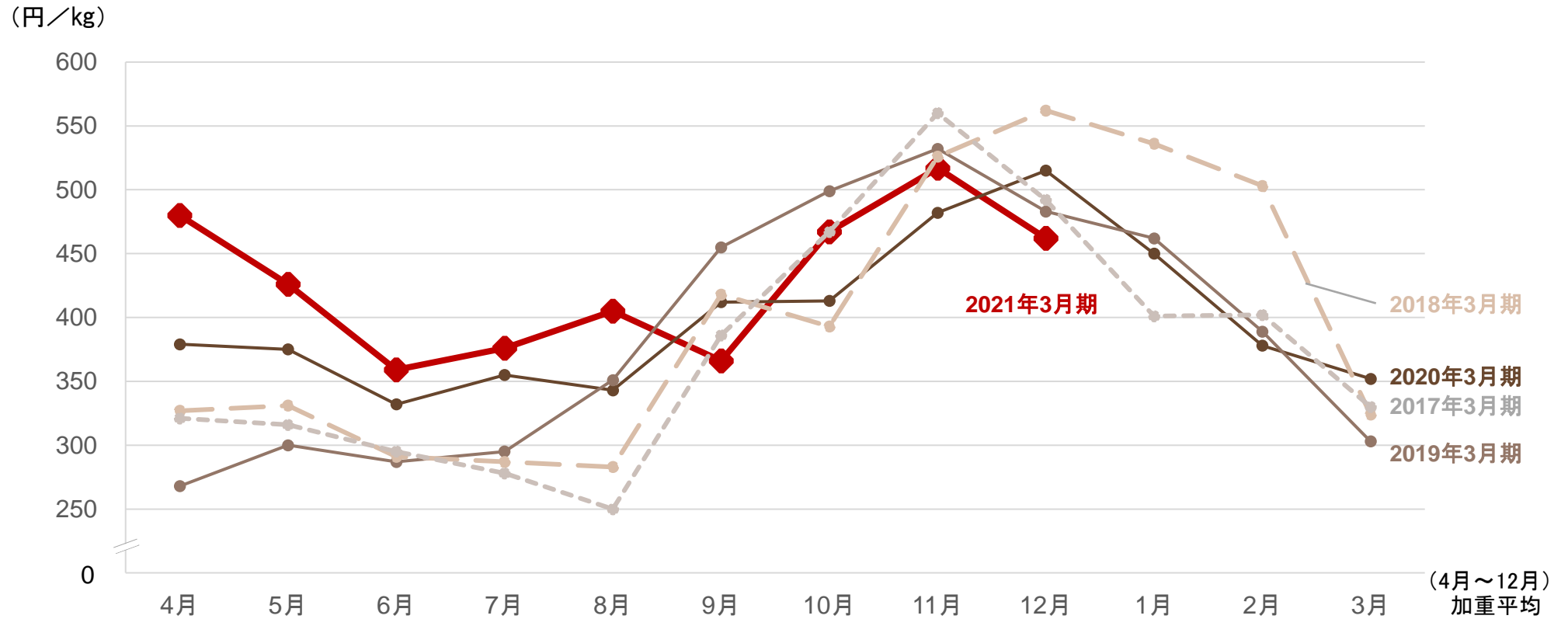
市場販売量の推移



2021年3月期	159	150	164	156	144	194	219	203	203					1,592
2020年3月期	216	183	181	164	156	195	211	191	197	167	197	209		1,692
2019年3月期	220	203	181	186	156	197	238	206	241	213	205	205		1,828
2018年3月期	177	194	199	184	185	208	245	206	217	193	187	200		1,815
2017年3月期	219	229	216	214	206	254	261	234	237	247	204	192		2,070



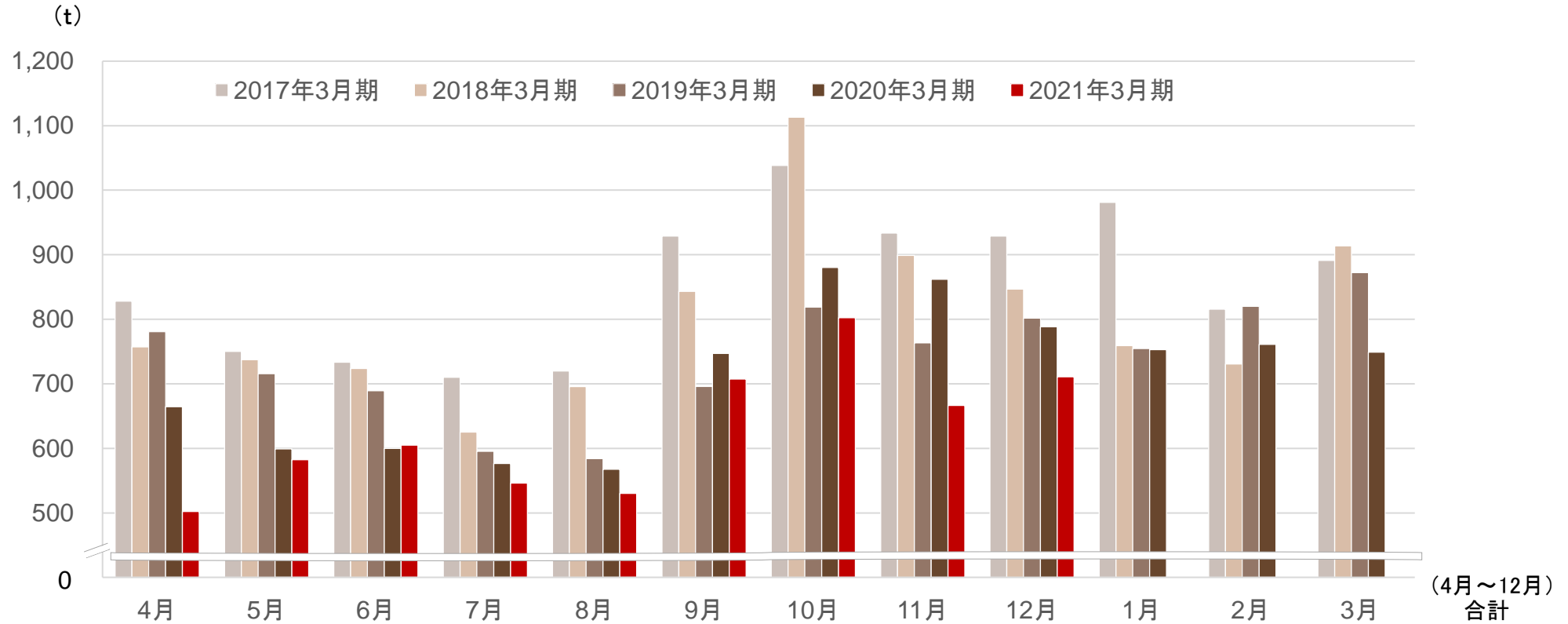
市場取引単価の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	(4月~12月) 加重平均
2021年3月期	480	426	359	376	405	366	467	517	462				430
2020年3月期	379	375	332	355	343	412	413	482	515	450	378	352	409
2019年3月期	268	300	287	295	351	455	499	532	483	462	389	303	391
2018年3月期	327	331	291	287	283	418	393	526	562	536	503	324	389
2017年3月期	321	316	295	278	250	386	467	560	492	401	402	330	386



市場販売量の推移



2021年3月期	502	582	605	546	530	707	802	666	711				5,652
2020年3月期	665	599	600	577	567	747	880	862	788	753	761	749	6,285
2019年3月期	781	716	689	595	584	696	819	763	801	755	820	872	6,444
2018年3月期	757	737	724	625	695	843	1,113	899	847	759	731	914	7,241
2017年3月期	828	750	734	710	720	929	1,038	934	929	981	816	891	7,571



2

2021年3月期 業績予想



2021年3月期 業績予想

※2020年9月17日に公表した「東京証券取引所市場第一部への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」における当社グループの連結業績予想より変更はありません

- ・2021年3月期(2020年4月1日から2021年3月31日)における当社グループの連結業績予想は、2020年3月期に対し、増収・増益の見通し

(百万円)	2020年 3月期	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	2021年 3月期	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	増減額	増減率
収益合計	50,759	—	—	52,678	—	—	+1,918	+3.8%
内売上収益	34,517	—	—	35,632	—	—	+1,114	+3.2%
営業利益	6,691	13.2%	19.4%	8,324	15.8%	23.4%	+1,633	+24.4%
税引前利益	6,646	13.1%	19.3%	7,783	14.8%	21.8%	+1,137	+17.1%
当期利益	4,344	8.6%	12.6%	5,099	9.7%	14.3%	+754	+17.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	4,346	8.6%	12.6%	5,099	9.7%	14.3%	+752	+17.3%
【参考数値】								
調整後営業利益	6,899	13.6%	20.0%	8,618	16.4%	24.2%	+1,718	+24.9%
調整後EBITDA	8,672	17.1%	25.1%	10,453	19.8%	29.3%	+1,781	+20.5%
調整後当期利益	4,282	8.4%	12.4%	5,466	10.4%	15.3%	+1,183	+27.6%

注)：調整後営業利益、調整後 EBITDA 及び調整後当期利益を以下の算式により算出

調整後営業利益＝営業利益＋マネジメントフィー※1＋上場関連費用※2

調整後 EBITDA＝調整後営業利益＋減価償却費及び償却費

調整後当期利益＝当期利益＋マネジメントフィー※1＋上場関連費用※2＋リファイナンス関連損益※3＋調整項目の税金調整額

※1：当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び㈱神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬

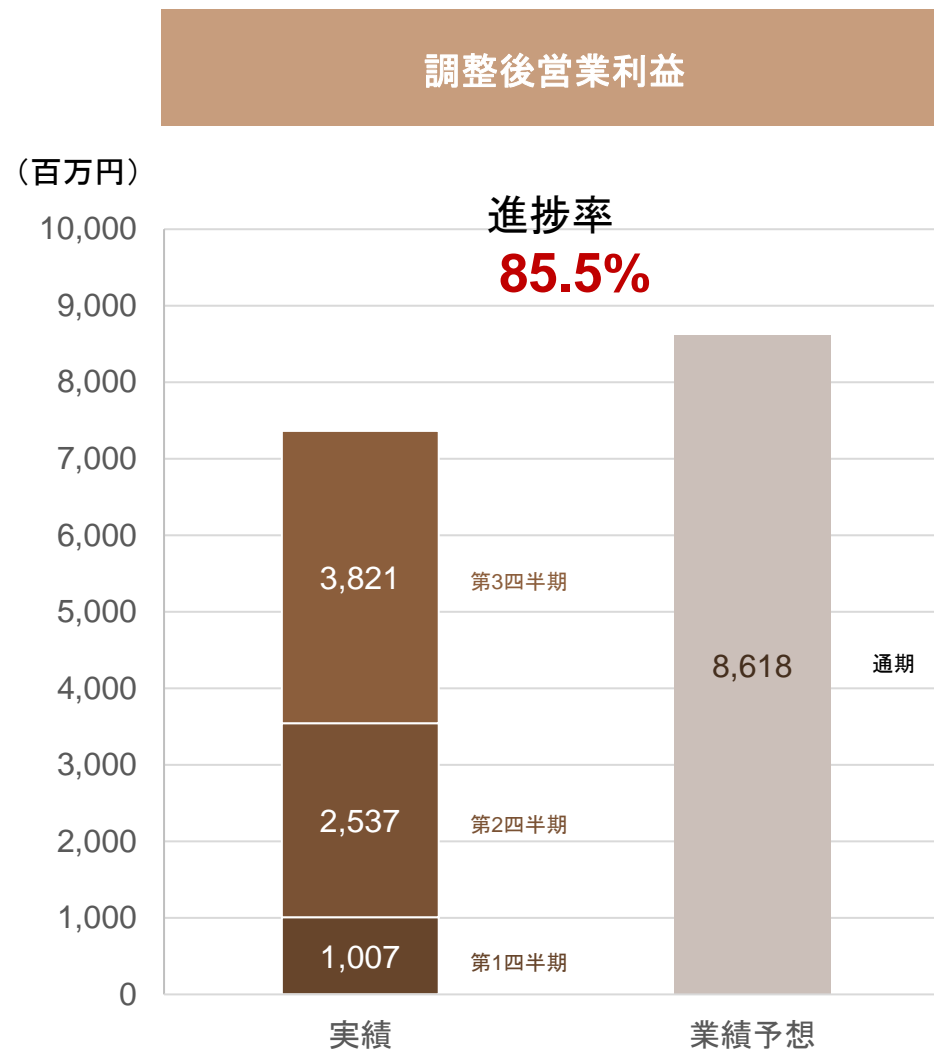
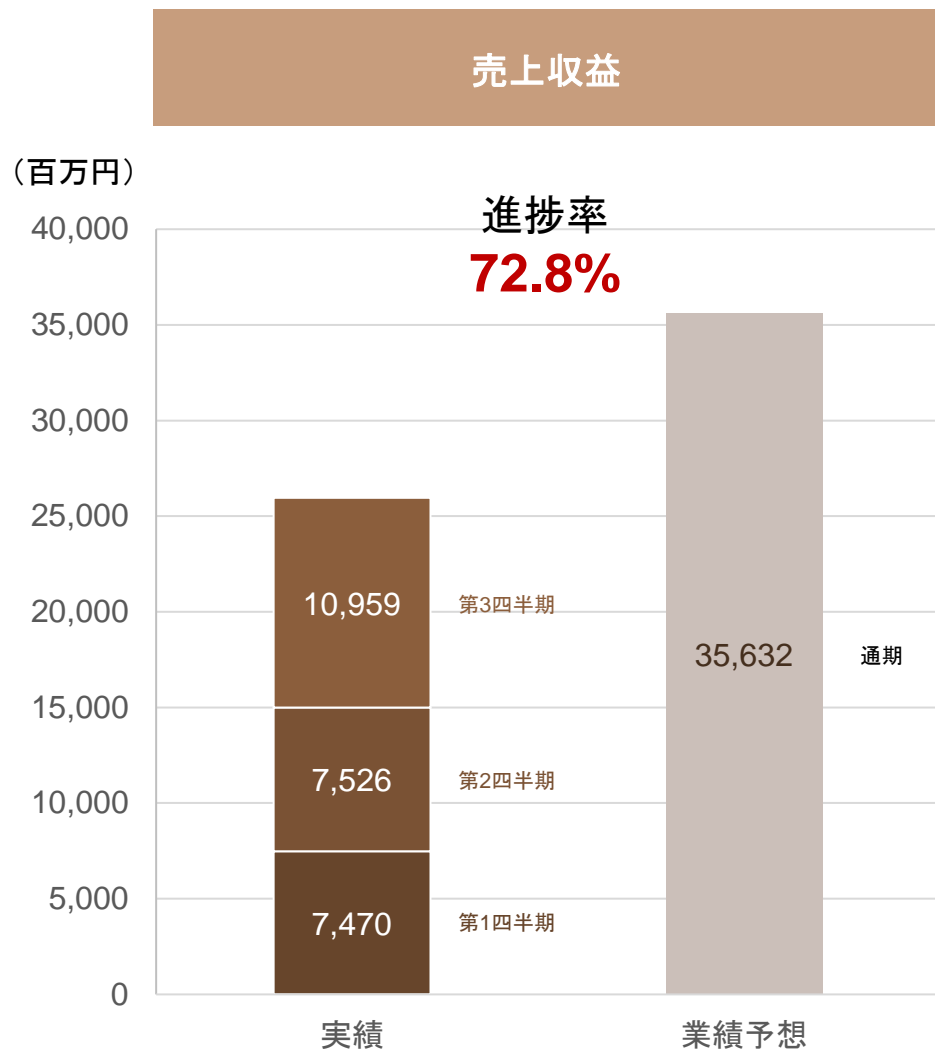
※2：上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用

※3：当社非公開化後に実施したリファイナンスに関連して一時的に発生したアドバイザー費用等。また、同リファイナンスに伴う契約金利の低下によって発生した一時的な利得とそれに連動して発生する残存契約期間における支払利息の増加額を相殺



業績予想に対する進捗(四半期)

- 業績予想に対する進捗は概ね計画通りに推移



(注)調整後営業利益を以下の算式により算出

調整後営業利益 = 営業利益 + マネジメントフィー※1 + 上場関連費用※2

※1 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び榊神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬

※2 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用



今後に向けた当社の財務方針

- ・潤沢なキャッシュフローを背景に、成長投資の強化、財務体質の安定強化、株主還元策をバランス良く行う

成長投資の強化

- ・ 生産供給能力の継続的な強化
- ・ 中長期的な海外進出や工場建設の検討
- ・ M&Aも活用した事業ポートフォリオの更なる強化も随時検討



財務方針

財務体質の安定強化

- ・ 有利子負債削減を通じたバランスシートの強化継続
- ・ Net D/Eレシオ、Net D/EBITDA倍率等財務指標の改善

株主還元策の実施


- ・ 毎期のフリー・キャッシュフローに応じた弾力的な利益還元策を行う方針
- ・ 連結配当性向: 30%程度を目標
- ・ 株主優待制度を実施(年1回)



株主還元

- ・ 連結配当性向 30%程度を目標とした配当、及び年1回の株主優待にて株主還元を行う方針

配当	年間配当(予想)	42円00銭
	1株当たり配当金	中間配当 14円00銭
	期末配当(予想)	28円00銭

株主優待	対象となる株主様	毎年3月末日の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有かつ6ヶ月以上継続保有(割当基準日である3月末日とその前年の9月末日に、同じ株主番号にて、連続して株主名簿に記載された状態)
	優待内容	3,000円相当の当社商品 
	贈呈時期及び方法	毎年6~7月頃(予定)に、直前の3月末日現在の対象の株主様に発送

※写真はあくまで一例です



3

中期経営計画 (2020年3月期から2023年3月期)



テーマ・基本戦略

プレミアムきのこ総合
メーカーとしての
基盤確立

まいたけでの
圧倒的No.1の
達成と維持

生産・包装の
技術革新の
追及

需要拡大につながる
機能性、きのこ
高品質化研究

財務体質の
強化

当社独自モデルの
海外展開への
準備

定量目標

営業利益：年平均成長率7%前後

注1):IFRS に基づく財務報告値ベース

注2):年平均成長率の対象期間は 2020 年3月期から2023 年3月期の3年間

注3):営業利益は一過性費用を除いた調整後営業利益(営業利益+その他調整費用)を使用



健康需要の拡大を捉えた、まいたけ事業を中心とするトップラインの成長



アグリテックの追求による生産性の向上



ECを中心とした健康食品事業の拡大

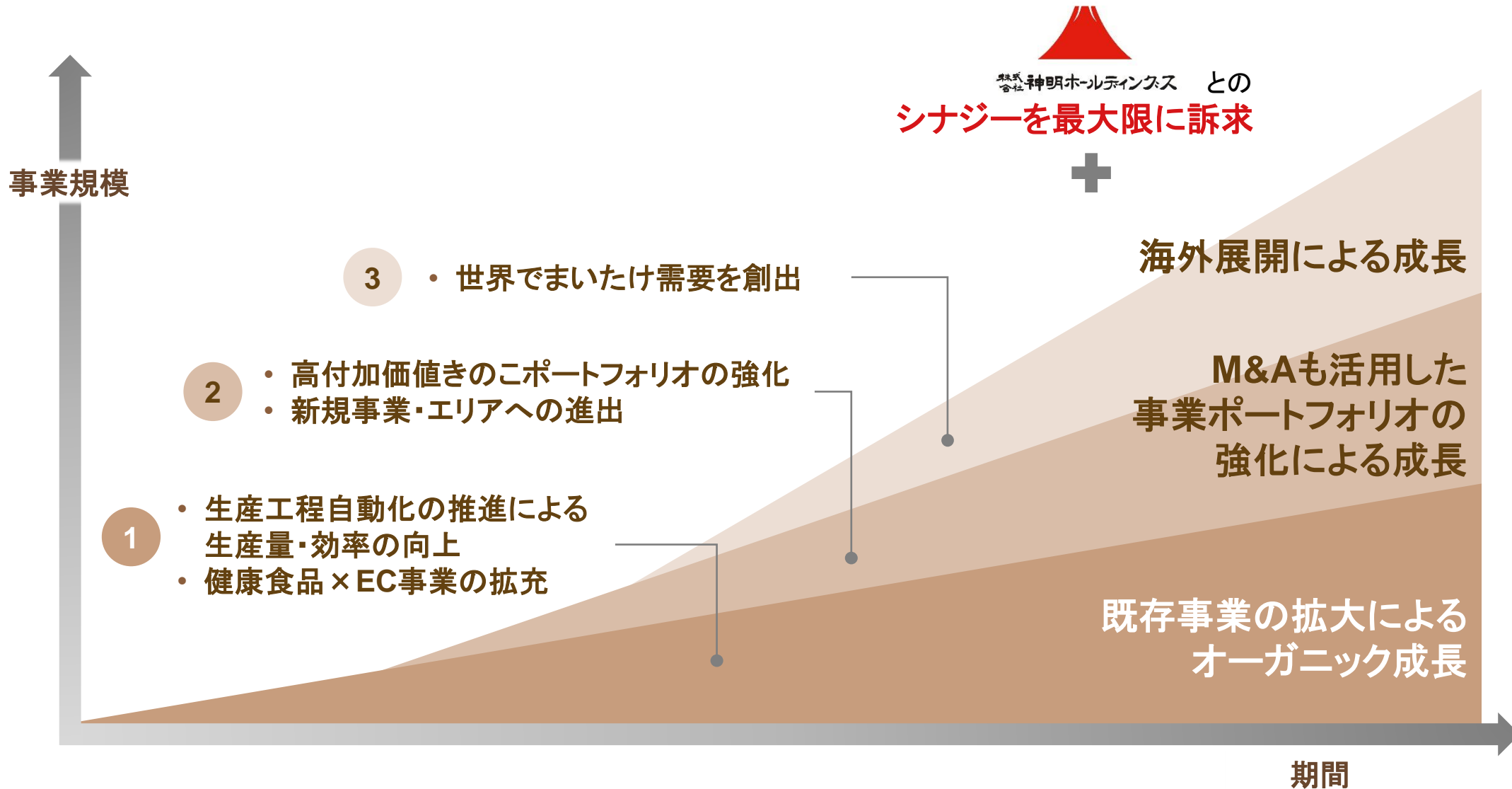


M&Aも活用した事業ポートフォリオの強化



中長期的な成長イメージ

- 中長期的には、神明ホールディングスとのシナジーを活かしながら、技術革新によるコスト効率化、生産キャパシティの増強や ECの販路拡大のオーガニック成長に加え、M&Aを中心とした事業ポートフォリオの強化及び海外展開による成長に取り組むことで、更なる成長を企図





4

參考資料



雪国まいたけグループの概要

株式会社雪国まいたけ



代表者	足利 徹
設立年月	1983年7月
本社所在地	新潟県南魚沼市
証券コード	1375
上場市場	東京証券取引所市場第一部
発行済株式数	39,850,000株
従業員数 ^{*1)}	社員: 1,121名、臨時雇用者数: 1,287名 (2020年12月末時点)
事業内容	まいたけ、エリンギ、ぶなしめじの生産販売 及びきのこの加工食品の製造販売



瑞穂農林株式会社



京都府京丹波町での
本しめじ、はたけしめじの
生産・販売



株式会社きのこセンター金武



沖縄県金武町での
ぶなしめじ生産・販売



株式会社三蔵農林



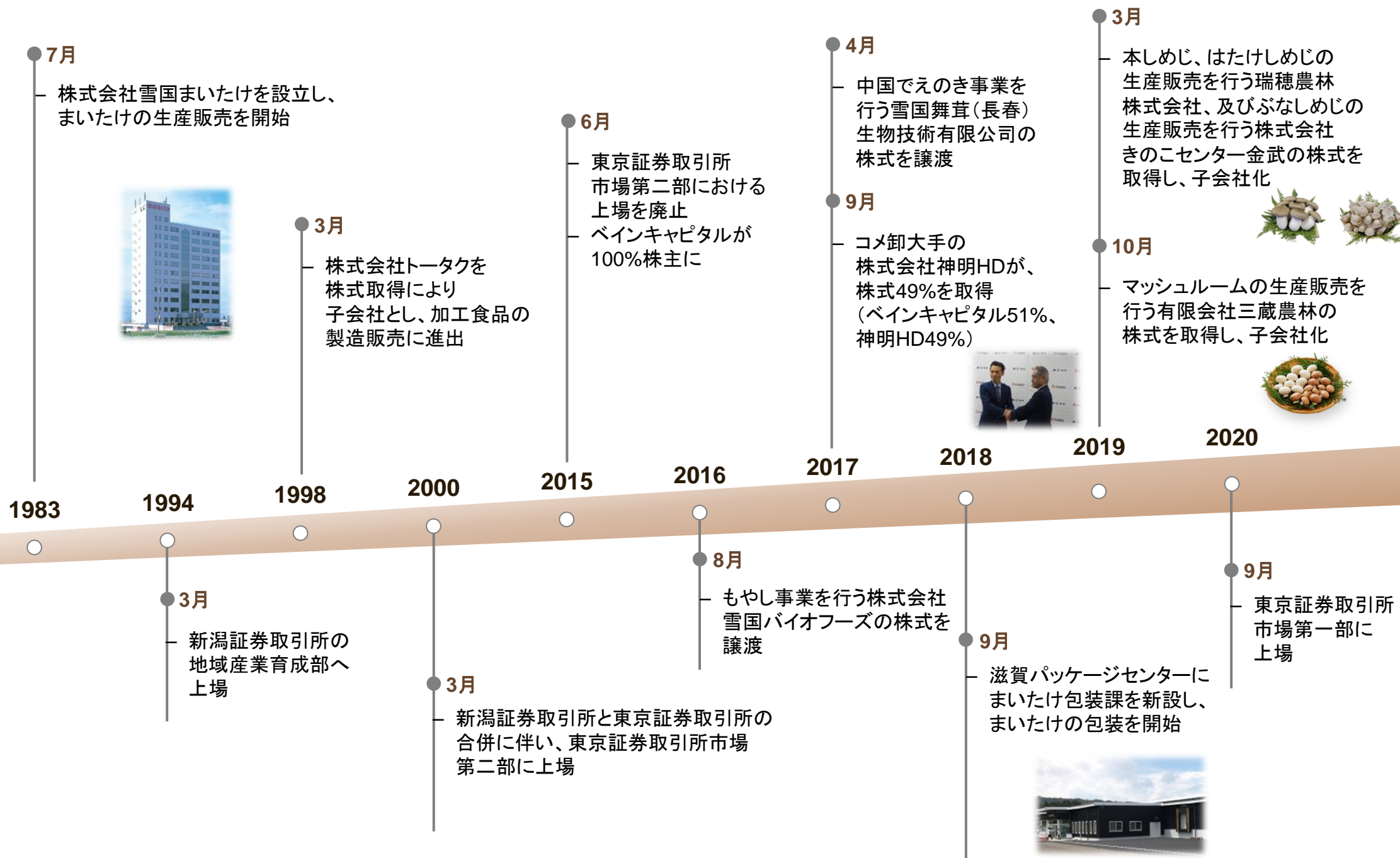
岡山県牛窓町でのマッシュルーム
生産・販売



*1): 従業員数は就業人員であり、社員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者含む)と、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む、最近1年間の平均人員数)で構成



主な沿革

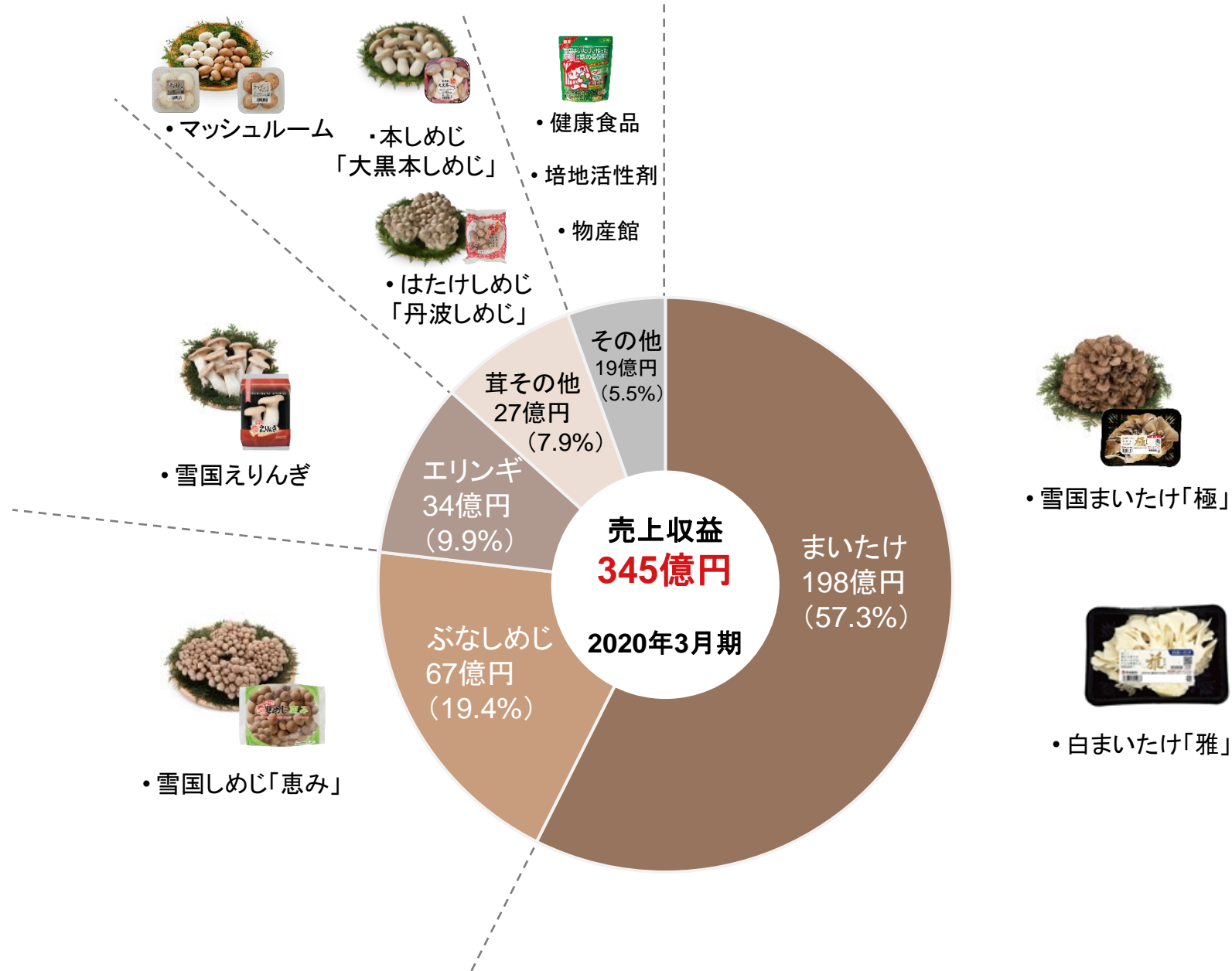


注1): 上記に記載の「ベインキャピタル」とは、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行うファンドの総称
 注2): 三蔵農林は、2020年3月2日付にて有限会社三蔵農林から株式会社三蔵農林へ組織変更



主な取扱商品と売上収益の構成比

- まいたけの量産を世界で初めて成功し、きのこ生産を工業化した、「プレミアムきのこ」のトップシェアメーカー
- まいたけをはじめとしたきのこ類に加え、きのこポータルサイトを活かした健康食品、加工食品等を展開





・ ましたけの人工栽培と量産のパイオニアであり、きのこの工業生産を手掛けるリーディングカンパニー

雪国まいたけ
「極」・「雅」



雪国えりんぎ



雪国しめじ
「恵み」



ミツクラ農林^{*1)}
マッシュルーム



本しめじ^{*1)}
「大黒本しめじ」



はたけしめじ^{*1)}
「丹波しめじ」



加工食品^{*2)}



健康食品^{*3)}



*1): 茸その他に分類

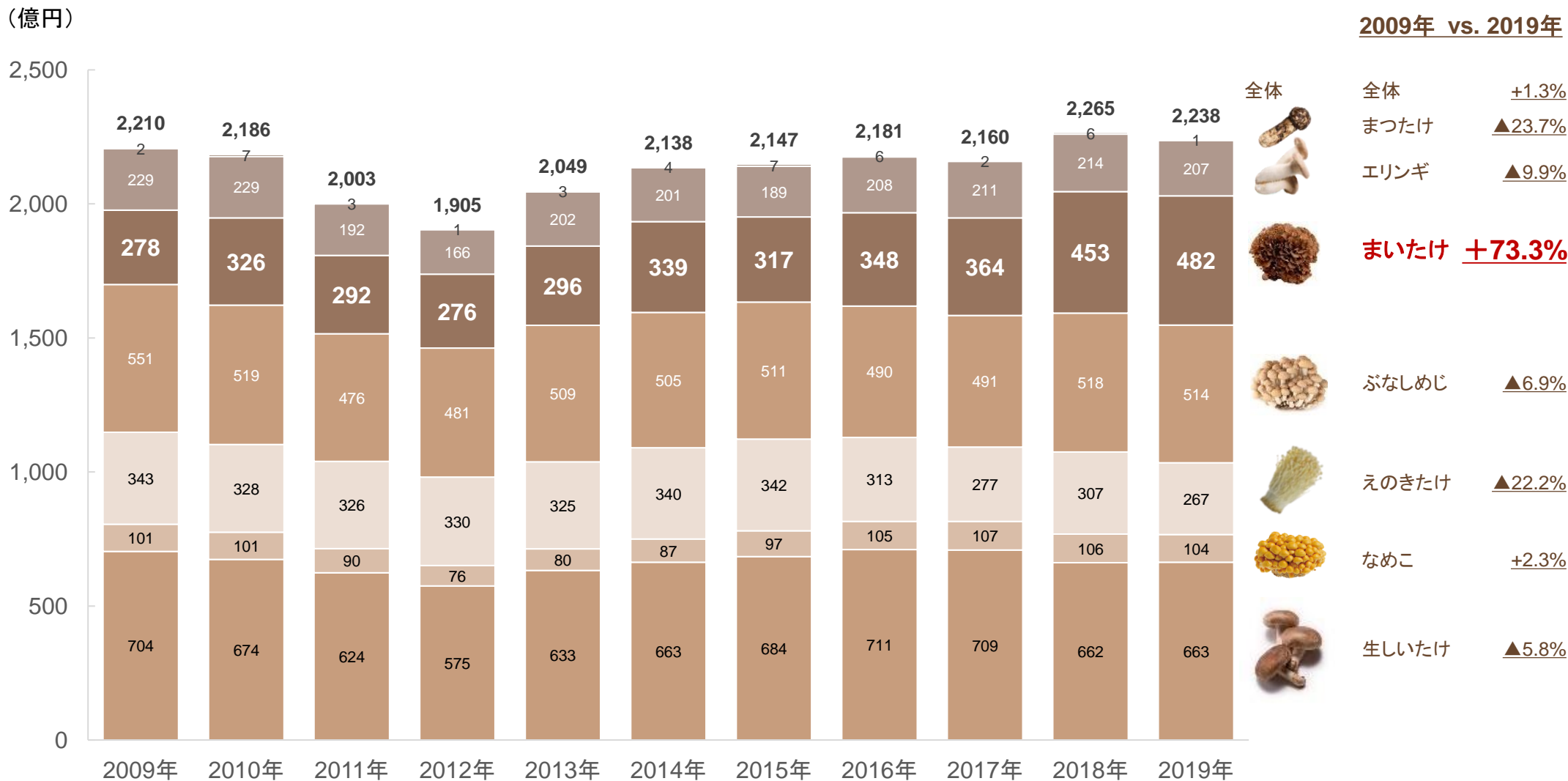
*2): 各きのこの加工食品は、原料となるきのこのセグメントに分類

*3): 健康食品等は、その他事業に分類



きのこ市場の動向

- きのこ類全体の市場規模は東日本大震災に付随する風評被害等の影響を受け一時的に縮小したものの、2013年以降は拡大基調。中でもまいたけは高成長を実現



注1)：きのこ市場(全体)は生しいたけ、なめこ、えのきたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、まつたけを合計した市場規模
 注2)：各種きのこの市場規模は、「東京卸売市場の年次卸売平均単価(1月～12月)×国内生産量」で算出
 注3)：「ぶなしめじ」の市場規模計算時の単価には「しめじ」の平均単価を使用
 出所：林野庁 特用林産基礎資料、農林水産省 地域特産野菜生産状況調査、東京都中央卸売市場 市場統計情報

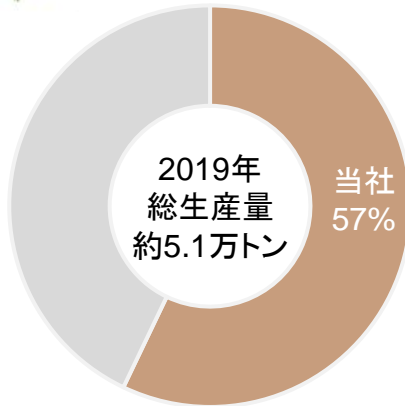


雪国まいたけグループ きのこ生産量シェア

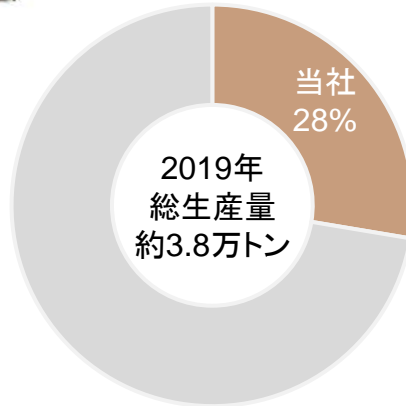
- まいたけをはじめ、展開する各きのこのマーケットにおいて高いシェアを獲得



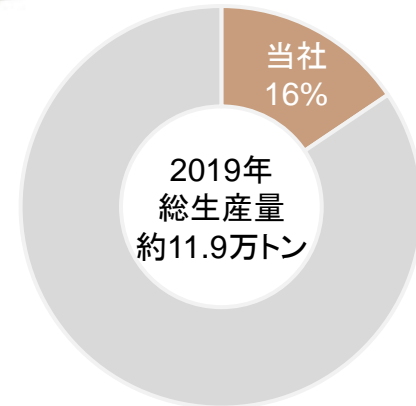
まいたけ



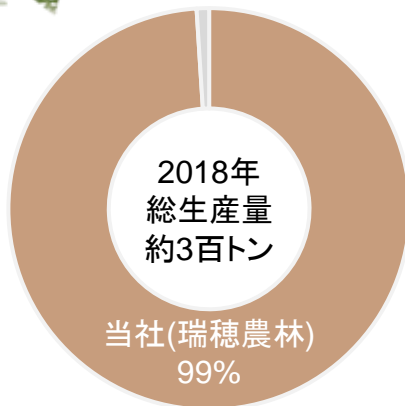
エリンギ



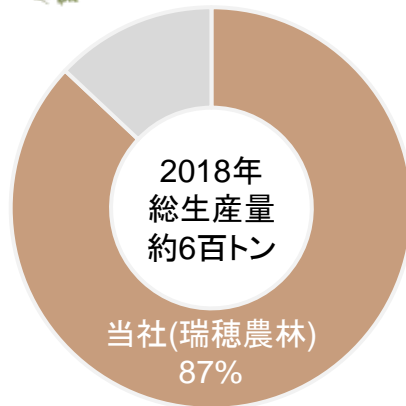
ぶなしめじ



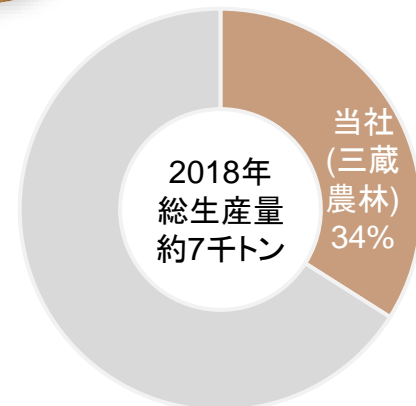
本しめじ



はたけしめじ



マッシュルーム



注) 各種きのこの市場シェアはそれぞれ国内生産量ベースで算出(弊社生産量÷国内全体での生産量)
出所: 林野庁特用林産物生産統計調査、農林水産省地域特産野菜生産状況調査



バリューチェーン

- まいたけ事業をコアとした独自のバリューチェーンにより、高い参入障壁とキャッシュフローを創出するビジネスモデルを確立

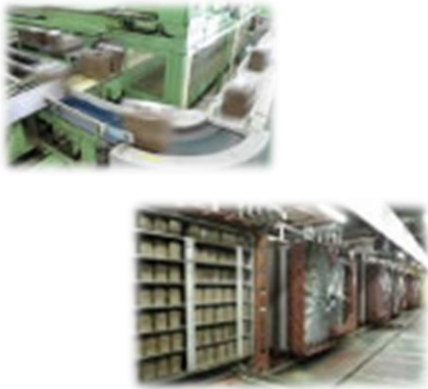




- 栽培が困難なまいたけを世界で初めて工業化し、安定的な生産・供給体制を実現
- アグリテックの追求による生産性向上への取り組みも積極的に行っている

安定した生産能力・収穫・品質

培地合成



- 独自レシピで培地を配合し、農薬や化学肥料は一切不使用
- 高温・高圧で培地を殺菌

植菌



- 独自に開発した自社菌を培地に植え付け
- 植菌作業の自動化への取り組み
- クリーンルーム管理による雑菌対策

培養・育成



- 広大な培養室と発生室でデータによる科学的な環境管理
- 光環境、温度・湿度制御を適切に管理し、大量生産を実現

収穫/包装



- エリンギ・ぶなしめじでは多くの生産工程で自動化を実現





当社まいたけの特徴

- まいたけを天然同様のサイズに成長させ、食感を最も引き出せる袋栽培を採用し、大規模栽培によるまいたけの工業生産を実現

商品の特徴

- 1株が大きく、需給に合った多様な容量の商品を展開
- 旨みと風味のバランスが良く、高品質なまいたけを実現
- 歯ごたえ、弾力性が強い「**茎**」が大きく、食べ応えがある



栽培方法

- **袋栽培**を採用
- 1株あたり**約900g**





・ ましたけの持つ豊富な栄養素を活用して独自で健康食品を開発・展開し、ECを通じて販売

雪国ましたけ ONLINE

株式会社雪国ましたけが運営する公式オンラインショップです。えいふり由来の健康食品「ましたけのふしぎ」シリーズを展開しています。

[サイトマップ](#)
[お問い合わせ](#)
[コーポレートサイト](#)

雪国ましたけ ONLINE
 ー雪国ましたけ公式通販サイトー

ご注文・商品に関するお問い合わせ [マイページ](#)
 0120-990-533 [カートを見る](#)
 受付時間 9:00-17:00(土日・祝除く)

[HOME](#) | [ましたけのふしぎシリーズ](#) | [商品一覧](#) | [定期コースの案内](#) | [はじめての方](#) | [よくある質問](#)

MXフラクション含有!

雪国ましたけを乾燥・粉砕し、凝縮して粒にした高濃度ましたけサプリ

雪国ましたけの粒

- ・ましたけ由来MXフラクション含有
- ・ましたけ由来の食物繊維
- ・持ち運びしやすい個包装

無理なく続けていただきたいから
3 定期購入コースの嬉しい特典

- 特典1** 特別割引価格で購入できる!
- 特典2** 回数縛りなく、解約・休止可能!
- 特典3** 数やお届け日などの変更も調整可能!

[定期コース詳細を見る](#)

会員の方

- ▶ 会員情報の確認・変更
- ▶ お届け内容の確認・変更
- ▶ 定期コース内容の確認・変更

はじめての方

- ▶ はじめての方

お知らせ

2020/08/03	2020年夏季休業のご案内
2020/05/01	ゴールデンウィーク休業のお知らせ
2020/03/27	「まいふりマート」販売終了のお知らせ

[お知らせ一覧はこちら](#)

雪国ましたけの健康商品

取扱商品



雪国ましたけの粒



MDフラクション®プラス



ましたけア



雪国ましたけが作った
家族で飲める青汁プラス



雪国ましたけが作った
家族で飲める青汁



まいたけの健康機能性

- ・まいたけが持つ栄養素には、高い健康機能性が期待されており、当社は解明に向けて研究に注力

多糖類の一種「グルカン」

α-グルカン

まいたけに含まれる多糖類は、その機能性を探るため、さまざまな研究がなされている。主要な多糖類の一つであるα-グルカンは、インフルエンザや免疫に関する研究がされている。^{*1)}

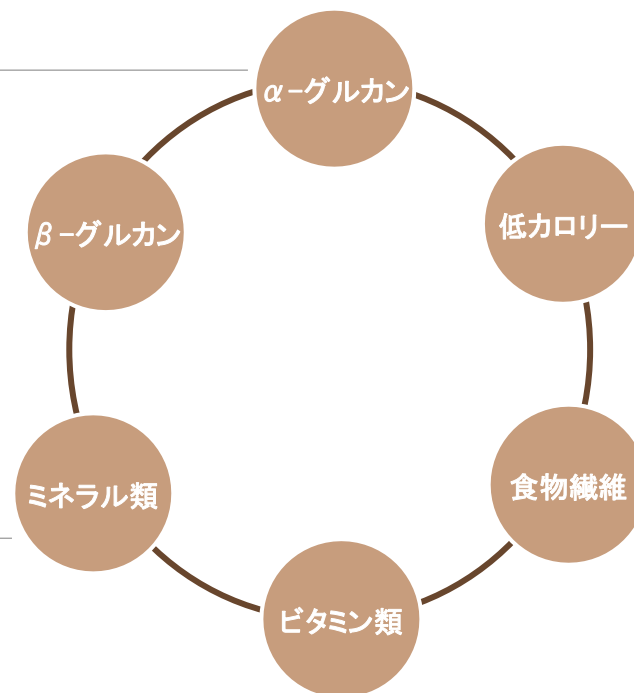
*1): 『マイタケα-グルカンのインフルエンザ治療効果』
日本醸造会誌108 401-412(2013)

カラダに必要不可欠な栄養素

ミネラル類

ミネラルは、カラダに欠かせない栄養素だが、体内で作ることができないため、食べ物から摂取する必要がある。

まいたけには、余分な塩分を体外に出す働きがあるカリウムやカラダの調子を整えるマグネシウム等が含まれている。



さまざまな効果が期待される

まいたけの食物繊維

食物繊維は、食後血糖値の上昇を抑える効果が期待されている。さらに、まいたけには、最初に摂った食事が次に摂った食事の後も血糖値上昇を穏やかにする「セカンドミール効果」が確認されている。^{*2)}

また、食物繊維は、脂質や糖等を吸着して、体外に排出する働きがあるといわれており、まいたけに含まれる食物繊維は、便の量を増やし、消化管の通過時間を短縮させる。

*2): 『マイタケの血糖値上昇抑制効果とセカンドミール効果』
第64回 日本栄養・食糧学会大会



まいたけの食べ方提案

- 毎日手軽にまいたけの栄養を摂取できる食べ方をまい足し®メニューの提案等で発信

「まい足し®」メニューの提案

春



雪国きのこと春キャベツ・桜えびの炊き込みごはん

夏



雪国まいたけ極とトマトのキーマカレー

冬



雪国まいたけ極のミルフィーユすき焼き

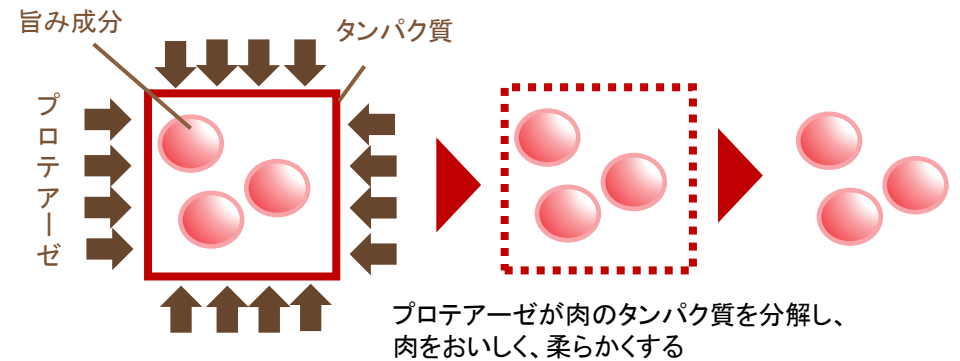
秋



雪国きのこと鮭の味噌炊き込みごはん

お肉を美味しくする食材としてのまいたけ

- 「まいたけ」に含まれるプロテアーゼという酵素が肉のタンパク質を分解して肉が柔らかくなり、アミノ酸を作り、旨味が増す



- 「まいたけ」には、三大旨味成分のうち“グアニル酸”と“グルタミン酸”を含み、肉の持つ“イノシン酸”と合わさり、相乗効果で料理のおいしさがアップ



グアニル酸
グルタミン酸



イノシン酸



旨みの
相乗効果

まい足し®とは、いつものメニューにまいたけをプラスすることで実現する「おいしく」「ヘルシー」な生活習慣のこと



サステナビリティに対する取り組み

- 環境保全に向けて、資源の最大限の活用やエコフレンドリーなエネルギーへの切り替え等の取り組みを強化中

ムダが少ない



廃棄ロスが極めて少ない

- 廃棄となったきのこも有効活用

資源のリユース



培地の再利用を推進中

- 栽培に使用した後のおが粉をバイオマスボイラーの燃料等に全て再利用

気候変動の緩和



エネルギー変換効率の高い新電力やLNGの導入

- 地熱等の自然エネルギーも活用
- 使用済培地も燃料として活用



社会貢献活動

- ・環境保全活動への支援や地域社会の活性化・発展への支援を通じて、社会の持続可能性を高める社会貢献活動にも取り組み中

Team Ecoへの参画

UX新潟テレビ21が主催する環境保全活動の趣旨に賛同し、2019年から協賛メンバーとして参加



地域イベントへの協賛

地域で開催されるスポーツイベントへの協賛、お祭り等へ参加を通じて、地域の活性化に貢献



南魚沼 - 沖縄金武交流会への協賛

株式会社きのこセンター金武が当社グループに加わった2019年より南魚沼・金武町小学生交流会へ特別協賛

新潟の子供たちは金武町の工場を、沖縄の子供たちは南魚沼市の工場をそれぞれ見学

地元小学生の見学受入れ

地元小学生の校外学習社会科見学の 일환として、きのこ生産・包装センターの見学受入れを実施





本資料に係る免責事項

本資料は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しており、当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

また、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない、過去の財務諸表又は計算書類に基づく財務情報及び財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれていることをご了承ください。



株式会社雪国まいたけ

証券コード: 1375